

仁徳天皇が大山祇神を朝鮮半島の百済から招致され、淀川の御島に鎮座された頃の三島江を中心とした湖沼の想像図です。

三島鴨神社の初めてのお社は淀川の川中州（摂津の御島）にありました。

桧尾川（安満川）・芥川・安威川（玉川）による玉川湖沼と淀川とが流す土砂が堆積して出来た川中州で、それは唐崎（韓崎）・枚方（白肩）あたりから下流の三島江（玉江）・柱本（柱松）・茨田におよぶ大きなもので、大山祇神のお社を設けたことによって尊敬して「御島」と書いたようです。

東対岸には玉川湖沼と淀川との合流点で、王都難波を守るために仁徳天皇による日本最初の本格的な治水土木工事による「茨田堤」があります。

たびたび水害に遭ったでしょうが、後に三島江（玉江）に遷座されました。

2) 三島鴨神社の歴史

社伝によれば仁徳天皇の時代に百済より大山祇神を迎えて摂津御島に淀川鎮守の社を造ったのを創祀としている。

これは『伊予国風土記逸文』に「乎知の郡。御嶋。坐す神の御名は大山積の神、一名は和多志の大神なり。是の神は、難波の高津の宮に御宇しめしし天皇の御世に顕れましき。此神、百済の国より渡り来まして、津の国の御嶋に坐しき。御嶋と謂うは、津の国の御島の名なり」とあることを根拠にしている。

さらに社伝によると、三島江の東の淀川沿いにいた物部の韓国連が祭祀に協力したとしている。素直に、物部の韓国連が百済から奉斎して来た神は渡しの神である、この神を大山祇神と習合させたのかもしれない。と考えて見る。

伊予の大三島島の大山祇神社の元社はすぐその北側の上浦町に鎮座する横殿神社とされている。この伊予は物部氏の小市國造、風速國造の支配する地であり、ここでも大山祇神の祭祀にかかわったものと思われる。

日本三三島の一である伊豆の三島神社もまた物部系の伊豆國造の国である。伊豆國造は物部連の祖天薨[薨の兒は生]杵命八世の孫・若建命。とされている。深く物部にかかわる神社であると言える。

当社は摂津国嶋上郡の式内社三嶋鴨神社の論社である。もう一つの論社は高槻市赤大路町字鴨林に鎮座の鴨神社である。鴨林は今でこそ住宅地で一杯だが、その昔は深い森だったようで、淀川からはいささか離れてはいるが、鴨族の祀る神社ならば、深い森もまた似つかわしいようにも思われる。

本殿

直接本殿にお参りできる。拝殿の再建が遅れてそれが習慣になったとのこと。



三島鴨神社の本殿